

笑顔で学ぶ

久留米市教育委員会発行
No. 8 (平成26年3月)

くるめっ子通信

知・徳・体を育む教育活動

- ・「くるめ学」による学力の育成
- ・心を耕す美術館鑑賞
- ・記録への挑戦で体力づくり
- ・携帯電話やテレビとの付き合い方

セーフコミュニティ認証式典ですばらしい発表



昨年12月21日に行われた「セーフコミュニティ認証式典」で、上津小学校の子どもたちが、「学校の安全の取組」について発表しました。

下の写真は、子どもたち自らが取り組んだ「校内安全マップづくり」の様子です。上津小学校ではこの他にも、安全安心の視点での校区探検マップの作成や安全な外遊びの奨励等を行っています。また、地域との連携による交通安全教室や安全学習等にも取り組んでいます。上津小学校では、これらの取組を行いながら安全安心の意識や実践力を高めてきました。



「セーフコミュニティ」ってなに？

市民、いろいろな団体、市が連携しながらけがや事故などを減らし、安全安心なまちづくりをしていこうとするもので、WHO（世界保健機関）が推進する取組です。久留米市は、上津小学校をモデル校とした「学校の安全」の取組等が認められ、中核市及び九州の自治体では初となるセーフコミュニティ国際認証を取得しました。

「笑顔で学ぶくるめっ子」に向かって 平成 25 年度の主な事業の成果

久留米市では、教育振興基本計画として策定した「第 2 期久留米市教育改革プラン」において、地域や学校と連携しながら、子どもたちの「生きる力」の育成のため、取組等を進めています。

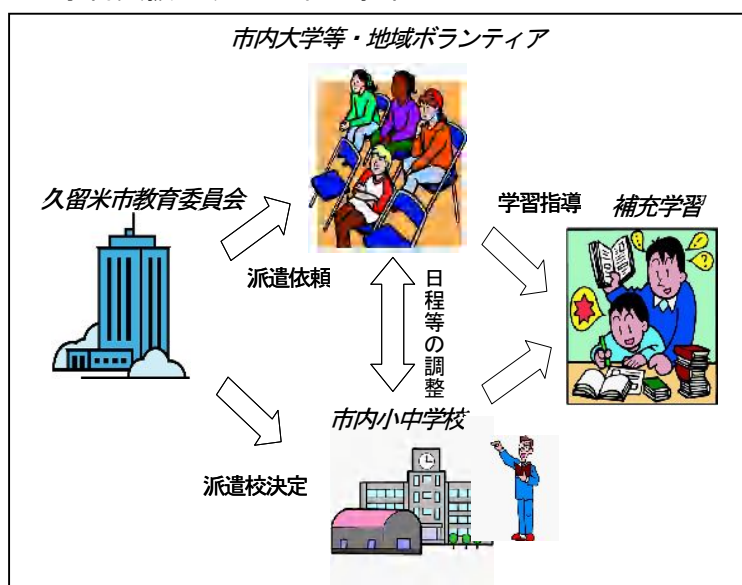
特に重点的に取り組んでいる「学力の保障と向上」「不登校の予防と対策」について、今年度の成果などを紹介します。

■学習支援ボランティアの協力により、授業以外で学習する子どもが増えています

平成 25 年度から、放課後の学習支援事業を、全ての市立小学校(46 校)及び中学校(17 校)に拡大しました。地域の方や学生のボランティアを派遣し、先生と協力して、放課後に子どもたちの宿題や授業の復習などの手伝いを行っています。

平日に授業以外で「ほとんど勉強しない」児童生徒の割合については、平成 23 年度と比べて小学校 5 年生で 1.6 ポイント、中学校 2 年生で 4.5 ポイント減少しており、学習習慣の定着の効果が現れています。

○学習支援ボランティア事業

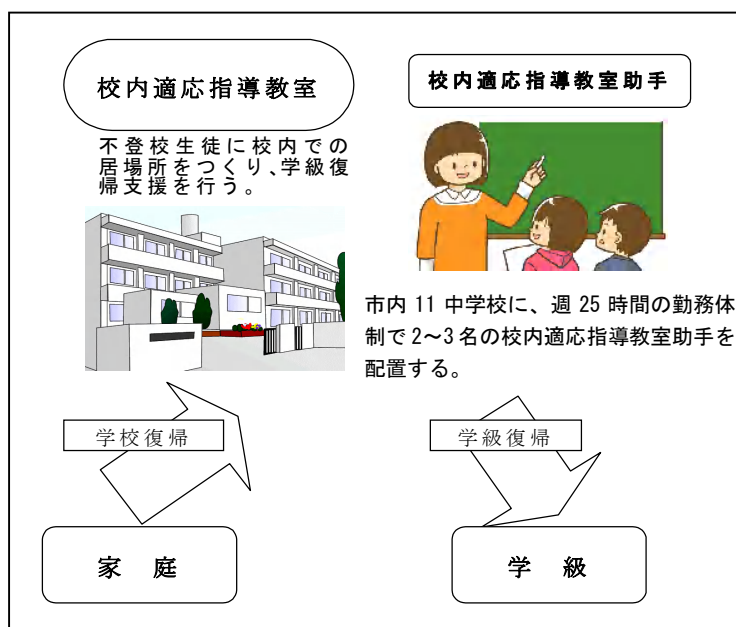


■不登校生徒の校内での「居場所」である校内適応指導教室の充実を行いました

平成 25 年度は、不登校の生徒の居場所である「校内適応指導教室」において、教育相談や、学習支援を行う助手を、既に配置している 4 中学校に加え、新たに 7 中学校に配置しました。

校内適応指導教室の助手は、担任の先生などと連携して、相談活動や学習支援などを通して、生徒のストレスの軽減や不登校の原因などを探り、段階的に学級へ復帰できるように支援を行っています。

○校内適応指導教室の仕組み



知・徳・体を育む教育活動

「くるめ学」による学力の育成



市立小・中学校では、自ら探究を深め、くるめを愛する子どもを育てる「くるめ学」の授業を行っています。

写真は、山川小学校の「伝えよう！くるめのエジソン 田中久重」の学習の様子です。郷土の出身者である田中久重のことを市民にもっと知ってもらおうと学習しました。からくり振興会の方々の思いや考えを聴き、自分たちにできるPR作戦を考えていきました。このように、自分たちで調べたことをまとめたり説明したりすることを通して、課題を解決するための思考力・判断力・表現力を育成しています。

心を耕す美術館鑑賞

市教育委員会では、市立中学校の第1学年の生徒を対象に「豊かな心」や「郷土を愛し誇りに思う心」を育成するために、美術館鑑賞のためのバス借り上げ事業を実施しています。

写真は、1月14日に石橋美術館を訪れ、ボランティアガイドから説明を受けている高牟礼中学校の生徒の様子です。「海の幸」など郷土の画家の教科書にも掲載されている数多くの名画を鑑賞し、美術の素晴らしさにふれていました。



記録への挑戦で体力づくり



市が推進している子どもたちの「健やかな体」の育成のため、各学校では「1校1取組」を行っています。

写真は、三潞小学校の外遊びチャレンジタイム(なわとび)の様子です。子ども達は、記録の向上のために、お互いにとび方を教えたり、回数を数えたりしています。このように、目標に向かって挑戦し、最後までやり通すことにより、健康の増進と体力の向上を図っています。また、なわとび認定証をもらうことにより、自尊感情の高揚にもつながっています。

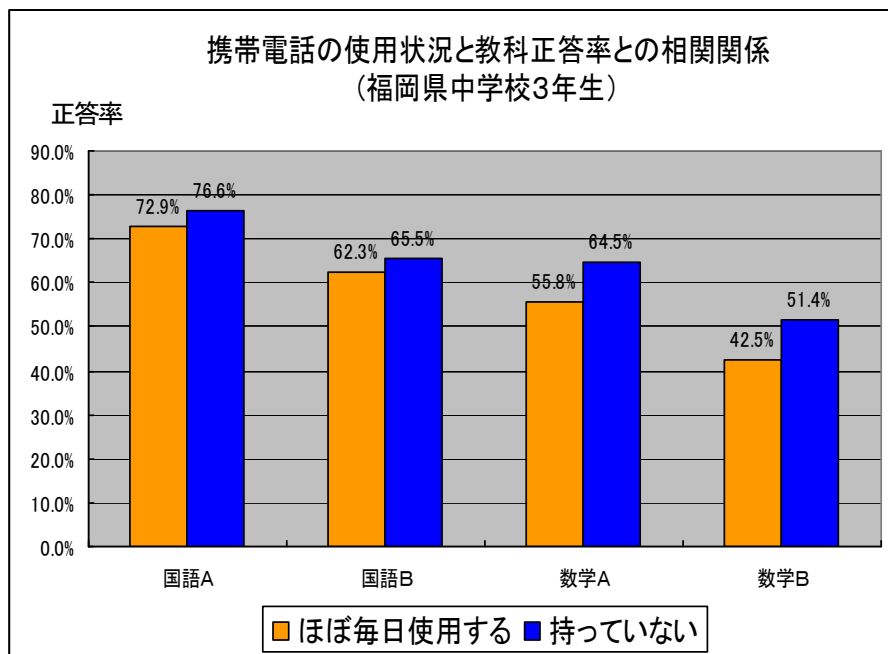
携帯電話やテレビとのつき合い方、どうしていますか？

平成25年度の全国学力・学習状況調査報告によると、携帯電話の使用状況やテレビ・ビデオ・DVDなどの視聴状況と学力実態との関連が報告されています。近年、子どもたちへの普及が広がっている携帯電話については、右のグラフのとおり、「ほぼ毎日使用する」生徒に比べて、「持っていない」生徒の方が、テストの正答率が高い傾向にあります。

しかし、現代の子どもたちの生活の中では、携帯電話やテレビなどは、切り離せないものとなっています。そこで、携帯電話等の適切な使用方法について、家庭で話し合い、約束を実行することが大切です。

久留米市の子どもたちは、携帯電話などの使い方について、家庭での約束が守られていない傾向が全国平均よりも高くなっています。それぞれの家庭で、上手な使い方ができているか、確認してみましょう。

屏水中学校校区では、次のような進んだ取組が行われているので、ご紹介します。



屏水中学校校区スローメディアプロジェクトの紹介

スローメディアとは？

映像メディア（テレビ・ビデオ・ゲーム・携帯電話等）に接する時間を減らすことです。

- ・ 月1回は、映像メディアのない生活を過ごす。
- ・ 家族間の対話や友だちとの関わりを増やす。
- ・ 子どもたちの生活リズム（早寝早起き・朝ご飯等）を整える。



「NO!TVデー」で勉強や読書をしている様子

→すべての子どもの学力保障の土台づくり
子どもたちの豊かな育ちのために

特別奨学金スポンサー募集

特別奨学金は、経済的な理由により高等学校等に就学することが難しい生徒に対して奨学金を給付する、久留米市独自の制度です。平成13年に善意の寄附により始まりましたが、寄附金が残りが少なくなり、制度の存続が危ぶまれています。本奨学金の制度を続けていくために、皆さまからの寄附をお待ちしております。

※寄附金のうち、2千円を超える額については、一定の限度まで個人住民税及び所得税の寄附金控除の適用を受けることができます。

久留米市イメージキャラクター



くるめっ子通信に関する
お問い合わせはこちら

久留米市教育委員会 総務・学校教育課
〒830-8520 久留米市城南町15番地3
TEL0942-30-9213 FAX 0942-30-9719
E-mail:kyoukou@city.kurume.fukuoka.jp